

## ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (ものづくり・地域産業コース)			訪問国	ニュージーランド
学校名	浜松西高校	氏名	松島詩歩	学年	2年生

1. 留学概要
2. 探究概要
3. 結果と考察
4. まとめ

### 1. 留学概要

私は夏休み期間を利用して、ニュージーランドのオークランドに3週間留学をした。平日は語学学校に通い、午後や週末を探究に利用した。

#### (1) 留学したきっかけ

私が留学した理由は、主に二つある。一つは、英語力を向上させたかったからである。私は英語でディベートを行う部活動に所属しており、2年生は大会に出られる最後の年である。そのため、留学することで英語力を高め、チームに貢献し、悔いのない引退試合をしたいと考えた。また、もう一つはユニバーサルデザインについての探究を行いたかったからである。私の弟は車椅子利用者であり、弟と一緒に外出をするときさまざまな不便があることに気付かされる。そのため、弟や弟の世話をする家族のために、自分が将来関わりたいものづくりの観点から何かできることを見つけたいと考えた。その際に注目したのがトビタテ！留学 JAPAN という制度である。この制度では自分の好きなことを海外で自由に探究することができる。私はその自由度に惹かれ、トビタテ留学 JAPAN 制度を利用して留学へ行くことを決心した。



#### (2) 留学先について

私がニュージーランドを選んだ理由は、ニュージーランドがバリアフリー先進国であるためである。ニュージーランドでは新しく建てる建物について、バリアフリーでなければならないと

いう法律が存在しており、バリアフリーに関する意識がとても高い。そのため、このような国と日本とを比べることで日本の改善点が見つけれられるのではないかと考えた。

## 2. 探究概要

私は「ニュージーランドから学ぶユニバーサルデザイン」というテーマで探究を行った。

### (1) 方法

私は、街を探検したりホームステイ先、学校の作りを観察したりして探究した。また、Instagram を活用し、日本人のユニバーサルデザインに関する意識を調査した。

## 3. 結果と考察

探究を通して、ニュージーランドには車椅子用の自動ドアなど日本ではあまりみない設備はいくつかあるものの、全体的には日本のバリアフリー設備とほとんど同じものが設置されていることがわかった。そこからわかることは、日本もバリアフリー先進国と位置付けることができるということである。それにもかかわらず、私が普段不便を感じていたのは、その設備の普及に地域格差があったからだと考える。ニュージーランドにおいても、バリアフリー設備における地域格差は感じられた。また、私はニュージーランドに行って、日本よりもユニバーサルデザインを意識していると感じた。その理由は、日本では階段とスロープを設置する建物が多い中で、ニュージーランドではそもそも段差を減らす工夫が見られたからである。日本はユニバーサルデザインというよりバリアフリーを意識する段階にあり、それはアンケートの結果にもみられた。これらのことから、日本はバリアフリーの全国的な普及をさらに目指すとともに、その一歩先である「誰もが使いやすい」デザインであるユニバーサルデザインを目指すべきであると考えた。



## 4. まとめ

留学を通して、私は自分や自分の国、地域について見つめ直すことができた。普段の生活をしている中では、普通のことと思われたことが、違う状況に自分を置いて見ることで特別なことであると認識することができたり、自分は何が得意なのか、何が好きなのかを見つめ直したりすることができた。